

# 朝日新聞

インタビュー

## スイスが中立にこだわるのはなぜ？ 背景には第一次大戦と多言語環境

2026年9月28日 15時01分 有料記事

パリ＝坂本進



ベルン大学のサシャ・ザラ教授＝本人提供 

スイスの中立とは何を意味し、今回の国民投票によって何か変わるのか——。スイスを代表する歴史学者でベルン大学教授のサシャ・ザラ氏に聞きました。

「より厳格な中立」求めるスイスの国民投票否決 対ロ制裁姿勢問われ →

スイスの中立を理解するためには、歴史を知らなければいけない。

1815年、ヨーロッパの列強はスイスの中立を認めた。列強側にとっては、互いを牽制（けんせい）し、どの大国にもスイスを支配させないという意図があり、スイスにとっては、中立は独立を守るための外交上の手段だった。1848年に近代的な連邦国家が樹立され、中立の原則は憲法に盛り込まれた。

その意味が変わったのが、第1次世界大戦のときだった。

スイスには複数の言語や宗教があるが、当時、フランス語圏ではフランスを、ドイツ語圏ではドイツを支持する声が強まっていた。政府関係者らがドイツ寄りを受け止められる行動をとると、フランス語圏の国民からの反発が高まり、対立が激化した。

そんな中、両者が一致できたのが、「スイスはどちらの側にも立たない」という立場だった。中立は国内の分裂を避けるための支えとなり、異なる言語を話す人々を結ぶ原則になった。

私自身はイタリア語を話すスイス人で、フランス語やドイツ語を話す人々と、言葉は同じではない。それでも「私たちは中立だからスイス人なのだ」という感覚は共有できる。中立は一種の「国家宗教」のようなものになった。

これまでのスイスの中立は「何もしない」ということではない。スイスは自国を守るための軍事力を備えて軍事的中立を守りながら、国益に応じて現実主義的に行動してきた。

冷戦終結後には、当時まだ国連に加盟していなかったにもかかわらず、国連の対イラク制裁に加わった。2022年のロシアによるウクライナ全面侵攻後は欧州連合（EU）の対ロシア制裁をほぼ全面的に採用した。

より厳格な中立を求めた今回の国民投票に関して私は当初、スイス人の中立への強い愛着から、支持を集めると考えていた。だが、中立を守ることと、今回の提案に賛成することは同じではないと、多くの人が見分けたのだろう。否決されてもスイスの中立は変わらない。ただ、中立をどう解釈するかという議論は、今後も続くだろう。

---